

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国公立対策講習	2	2年 1類 (A・B・C型)	希望選択
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	国語：なし 英語：『英語反復トレーニング』		国語：古文上達 (Z会) 等 英語：ユメタン

<p>科目の到達目標</p> <p>国語：1年次の国語総合、2年次の現代文、古典での学習を基礎として、国公立大学入試に対応するための力を養う。入試問題を読み解くために必要な知識や読解力を身につけ、解答を作成できる力を養う。</p> <p>英語：3年次に受験する共通テストを意識し、長文読解に必要な語彙力と文法力の習得を目指して進めていきます。</p>

<p>評価の観点と方法について</p> <p>国語・英語の出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。</p>

	月	学習単元・項目		
			ねらい	方法・活動
一 学 期	4	1学期 ・基礎固め ・問題演習	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> これから古文や漢文の学習を行っていくうえで必要となる基本的な文法事項を確実に身につける。 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 用言・助動詞について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	5		<ul style="list-style-type: none"> 漢文を読解するために必要な基礎知識を身につけ、短文を読めるようにする。 過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓点などの基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。 前年度の模試問題に取り組む。
	6		<ul style="list-style-type: none"> 漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 句法の知識を身につけることの意味を理解する。句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	7	夏期講習	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次に使用した単語帳から始め、基礎単語力を固める。 既習の文法事項を反復して様々な形式の問題に触れながら練習し、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4技能をバランスよく高める。 	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> グーグルフォームを利用し、講習までに単語テストを済ませる。 範囲の一部を予習課題とし、忘れがちな基本事項をおさらいした状態でディクテーションや自由英作などの発展的な問題に取り組む。

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
二 学 期	9	2学期 ・基礎固め ・共通テスト予想問題	国語 ・漢文を読解するために必要な基礎知識を身につけ、短文を読めるようにする。 ・過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。 ・漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。	国語 ・訓点などの基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。 ・前年度の模試問題に取り組む。 ・句法の知識を身につけることの意味を理解する。句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	10			
	11			
	12	冬期講習	英語 ・2年から使用し始めた単語帳を反復し、身に付ける。 ・既習の文法事項を反復して様々な形式の問題に触れながら練習し、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4技能をバランスよく高める。	英語 ・グーグルフォームを利用し、講習までに単語テストを済ませる。 ・範囲の一部を予習課題とし、忘れがちな基本事項をおさらいした状態でディクテーションや自由英作などの発展的な問題に取り組む。
三 学 期	1	・総合演習	国語 ・過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。 ・漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。	国語 ・前年度の模試問題に取り組む ・句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	2			
	3		英語 ・1年間の振り返りをし、3年生になるまでに英語の勉強方法を確立する。	英語 ・共通テスト前半で出題されるような短めの長文や中ぐらいの長文を解く。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

国語：授業での学習事項が基礎となります。現代文、古典ともに授業内容の理解、小テスト等への取り組みはしっかりと行って下さい。

入試に対応する力を講習時間のみですべて身につけるのは、非常に困難です。テストのための学習や課題への取り組みは、各自で確実にを行うようにして下さい。

英語：予習・授業・復習の3点セットで学習習慣の確立、英語力の向上を目指します。受動的な学習ではなく、能動的かつ主体的な学習姿勢を望みます。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国語科（指名者講習）	2	2年1類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
HHHHHHH		精選古典B（東京書籍） 精選現代文B（東京書籍）	古文単語330（いっずな書店） クリアノート（尚文出版）など

科目の到達目標
現代国語・古典の基礎的な内容の復習によって、一年次に学習したことの強化を図る。
主に一年次の古典学習の基礎を復習し、授業の補習を行うことによって、授業内容の理解度を高める。
適宜、小テストや定期考査対策を行い、学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図る。

評価の観点と方法について
課題や授業プリントの提出と小テストによって、授業の理解度を確認するとともに、授業態度、中間・期末考査の成績の結果をもってその評価とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一 学 期	4	一年次の復習 動詞・形容詞・形容動詞 助動詞など	・古典文法の基礎を確認する。	・プリントを用いて古典の基礎的な内容を復習する。
	5	説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」 説話『古今著聞集』 「能は歌詠み」 1 学期中間考査	・物語の内容がとらえられているかを確認する。 ・敬語表現の基本的な知識が身につけているかを確認する。 ・中間テスト対策	・主語、語句の意味、助動詞の意味をおさえる。 ・敬語表現を復習する。
	6	漢文 小話 「先従隗始」	・故事成語の背景が正しくとらえられているかを確認する。	・訓読上のきまりをより正しく理解させる。
	7	歌物語『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」	・物語の内容がとらえられているかを確認する。	・和歌の基本的な知識を身につける。
		随筆『枕草子』 「九月ばかり」 「中納言参り給ひて」 1 学期末考査	・自然や人間についての古人の優れた感性を知る。 ・期末テスト対策	・敬語表現が理解できているか確認するとともに、歌の修辞法などについて復習する。 ・現代文、古典ともに要点を整理する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	1学期の復習 物語『更級日記』 「門出」「物語」	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識を定着させる。 日記の内容がとらえられているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題の解き方を身につける。 漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。 重要単語や文法をおさえ、日記の内容を復習する。
	10	漢文 項羽と劉邦 「鴻門之会」「四面楚歌」 （『史記』）	<ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できているか確認する。 中間テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な句形や基本語句をおさえる。 書き下し文や口語訳の復習。 現代文、古典ともに要点を整理する。
	11	2学期中間考査 物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」「若紫」	<ul style="list-style-type: none"> 物語の内容がとらえられているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要単語や文法をおさえ物語の内容を復習する。 敬語を抜き出し、その種類と誰の誰に対する敬意かを確認する。 歌の修辞法や現代語訳を復習する。
	12	和歌「万葉秀歌」 「王朝秀歌」 漢文「春夜宴桃李園序」 2学期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 各歌集の和歌を読み比べて、時代による歌風の違いや各歌の内容がとらえられているか確認する。 期末テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な句形や基本語句をおさえる。 書き下し文や口語訳の復習。 現代文、古典ともに要点を整理する。
三 学 期	1	2学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題の解き方を身につける。 漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。
	2	歴史物語『大鏡』 「道長、伊周の競射」 「三船の才」 漢文『論語』『孟子』『老子』 など	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景とその人間関係をおさえ、物語のあらすじがつかめているか確認する。 内容がとらえられているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要語句や文法、敬語表現などを復習し、口語訳ができるようにする。 重要語や句法をおさえ、書き下しや口語訳を復習する。
	3	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 学年末テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> 現代文、古典ともに要点を整理する。
<p>その他（履修上の留意点） 予習・復習を徹底して行い、課題や小テストにも意欲的に取り組むこと。</p>				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習 (数学ⅡB)	2	2年・1類・B型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
IIIIIIIIII	新編 数学ⅡB 改訂版 (数研)		基本と演習テーマ 改訂版 数学Ⅱ+B (数研)

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、
数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて
具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第1章 式と証明 第2節 複素数と方程式	(数Ⅱ) 高次方程式を、因数分解を利用して解く。	2次方程式の解と係数の関係 複素数の計算 剰余の定理・因数定理	定理・公式を理解し、それを用いて基本問題を解くことができる。
	5	第2章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演習 <中間考査>	(数B) ベクトルや直線、円の考え方とその基本的な事項について習得させる。技能を習得させる。	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの平行・分解 ベクトルの成分 ベクトルの内積	基本的な性質を理解することができる。 図やグラフにおいて、点や直線をベクトルを使い表すことができる。
	6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	(数Ⅱ) x、yで直線・円を表現する。	直線の方程式 2直線の関係 円の方程式	
	7	第2章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと図形	(数B) 位置ベクトルを使って直線や円を表現する。ベクトル方程式の発想を理解させる。平面座標における方程式とベクトル方程式と関係を理解させる。	位置ベクトル ベクトルの図形への応用 ベクトル方程式	適切に問題を解くことができるか。
	7	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 <期末考査>	(三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第3章 空間のベクトル	(数B) 空間のベクトルでの位置ベクトルの取り扱いを習得させる。	空間における直線と平面 空間座標 空間のベクトル ベクトルの成分・ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用	平面と同じように、空間でも、図形の定理・公式を理解し、それを用いて基本問題が解くことができる。
	10	第5章 指数関数と対数関数 <中間考査>	(数II) マクロやミクロの世界の物差しとしての対数の必要性を理解させる。定義をきちんと理解させる。	指数拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数・常用対数	指数計算、対数計算を正確にすることができる。 指数、対数の方程式、不等式を解くことができる。
	11	第3章 数列 第1節 等差数列・等比数列 第2節 いろいろな数列	(数B) 等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。	等差数列・等差数列の和 等比数列・等比数列の和 いろいろな数列の和と記号 Σ 階差数列と数列の和、いろいろな数列の和	数列の規則性を理解し、一般項を求めることができる。 Σ 記号を使いこなせるか。
	12	第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分 <期末考査>	(数II) 現代数学の架け橋となった微分の定義を理解させその応用分野の広さを考えさせる。	微分係数・導関数 接線の方程式 増減表と極大・極小 不定積分 定積分と面積	微分係数の意味を理解しているか。その発展として導関数を自由にこなせるか。 微分の反対である積分を理解し定積分の応用に発展できるか。
三 学 期	1	第3章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	(数B) 漸化式の意味を理解する。数学的帰納法の発想を理解する。	漸化式 数学的帰納法	漸化式の規則性から一般項を求めることができる。数学的帰納法を理解し、適切な手順で証明することができる。
	2	<学年末考査>		授業の補助として簡易に問題を分解して基礎学力から学習をつなげる。	センター入試や各種学校の入試に対応できる。
	3				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

数学Ⅱの単位が4、数学Bの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。教科書の例題や問を補習的に進めていき、問題集の問題を課題として出す。授業についていくためにも復習は必ず行いたい。基本問題だけでなく授業についていけるように応用問題も取り入れていく。問題に対応するためには、普段から問題に対してなぜそうなるのか自分で考え、苦手な学習者は何度も何度も解答を覚えるほど繰り返してほしい。自から身につけてくる。寮や自宅での学習の習慣を身に付けたい。日々継続した学習を心がけてほしい。真摯な態度で受講することを強く望む。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習英語	2	2年Ⅰ類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	Vision Quest English Expression I Vision Quest English Expression II Big Dipper English Communication I	英語表現とコミュニケーション英語のそれぞれの副教材	

科目の到達目標
○普段の授業の復習をし、定期考査でコミュニケーション英語と英語表現のどちらも点数が取れるようになる。
○積極的に取り組み英語に慣れようとする態度が身に付いている。

評価の観点と方法について
出席状況・プリント・ノート等の提出、宿題・提出物の内容、小テスト、学習態度等に基づいて算出する。

	月	学習単元	学習項目	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	Lesson 9	分詞2	①分詞を構文を作ることができる。②受動態・完了形の分詞構文を理解できる②慣用的な分詞構文が理解できる。④分詞構文が度の意味か訳すことができる。	①授業に積極的に参加しているか。
	5	Lesson 10	関係詞	①関係代名詞を使い分けことができる。 ②関係代名詞Whatが理解できる。③限定用法と非限定用法が区別できる。④関係副詞を使い分けすることができる。⑤複合関係詞を理解できる コミュニケーション英語と英語表現の中間考査対策	②板書事項をしっかりと理解しているか。
		中間考査			③予習・復習がなされているか。
	6	Lesson 11	比較	①原級を使った表現を理解できる ②比較級を使った表現を理解できる ③最上級を使った表現を理解できる ④慣用表現を理解できる ⑤原級比較級をを使って最上級を現すことができる	④小テストや課題にしっかりと取り組んでいるか。
		Lesson 12	仮定法	①直接法と仮定法を理解できる ②仮定法過去・仮定法過去完了を理解できる ③未来のことを表す仮定法を理解できる ④様々な仮定法を使うことができる コミュニケーション英語と英語表現の期末考査対策	
7		期末テスト			

	学習単元	学習項目	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9 Lesson 1	主語を決める	①主語を決定する ②見えない主語を発見する。③時間・天候・距離などの it を使うことができる ③形式主語を理解する ④無生物主語が理解できる。	
	10 Lesson 2	動詞を決める ①	①自動詞と他動詞を理解できる。 ②他動詞が用いられる第3文型と第4文型を理解できる ③補語の入る第2文型と第5文型を理解できる コミュニケーション英語と英語表現の中間考査対策	
	11 Lesson 3	動詞を決める ②	①使役動詞を理解できる。 ②知覚動詞を理解し補語（C）のところに原形不定詞・現在分詞・過去分詞が来ることが理解できる ③ S+V+O+ to do の形になる様々な動詞を理解し使い分けることができる。	
	12 Lesson 4	動詞の形を決める①	① 日本語の「～する」、「～している」でも英語では必ずしも現在形や現在進行形になるとは限らないことを理解できる ② 日本語の「～した」、「～していた」でも英語では必ずしも過去形や過去進行形になるとは限らないことを理解できる。 コミュニケーション英語と英語表現の期末考査対策	
	期末考査			
三 学 期	1 Lesson 5	動詞の形を決める②	①義務・必要を表す助動詞を理解できる ②推量を表す助動詞が理解できる。 ③現在の事実と違うことを仮定する表現を使うことが出来る ④過去の事実と違うことを仮定する表現を使うことが出来る	
	2			
	3 Lesson 6	修飾語句を加える①	①名詞を前から修飾する語句を理解し使うことができる ②名刺を後ろから修飾する語句を理解し使うことができる コミュニケーション英語と英語表現の学年末考査対策	
	学年末考査			
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>高校2年生の英語はコミュニケーション英語と英語表現の2種類があります。それらが、1週間で6時間毎日あります。それらを週2時間の補修で補うとすれば、講習以外での普段の努力が大変重要となります。特に中学で苦手となった者は、中学の復習を自分でして下さい。わからなければ質問に応じます。この講習では、英語表現を中心に復習します。例年英語表現の方が苦手なものが多いからです。また講習の授業毎に確認テストを行います。それが、そのまま定期考査につながるの、積極的に取り組んで下さい。</p>				